

平成 29 年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第 7 分科会

都留市立禾生第一小学校

PTA 会長 清水 智 央

『学校を育てる地域のちから』

1. はじめに

急速な社会の変化に伴って核家族化が進行し、生活スタイルや考え方の多様化、希薄な人間関係が増加している今日、家庭や地域社会の教育力が弱まり、学校教育への比重が高まりつつある。

そのような中、禾生地域については家庭や地域の教育力がまだまだ失われていないと感じている。禾生第一小学校の P T A の立場で地域の教育力を考えてみた。

2. 学校と地域の概要

(ア) 学校の概要

- ・全校児童数 245名 家庭数 184軒 職員数 31名 学級数 11学級
平成29年8月31日現在
- ・学校創立明治6年（創立144年 9月14日が創立記念日）
- ・通学地域の端点は概ね、
 - ◎富士急行線赤坂駅周辺
 - ◎富士急行線禾生駅周辺
 - ◎県道35号四日市場上野原線 秋山方面およそ3キロメートル区間
- ・盛里方面（秋山方面）の児童は、富士急バスをスクールバスに利用して登校している。
- ・本校は創立144年の歴史と伝統のある学校で、児童玄関前に教育の原点である『知・徳・体』を象徴する3本の柱「赤門」がそびえ、学校教育目標の「自分をみがき、人とかわり未来をひらく子どもの育成」を目指して、学校・保護者・地域が連携・協力して取り組み、子どもたちの豊かな心を育てています。（ホームページより）
- ・校区を県道・国道・バイパス・線路が通り、大型商業施設・マンション・団地・住宅が建設され、人口が増加している地域です。保護者は教育に関心が高く、学校と家庭と一緒に、子どもの生活習慣・家庭学習の定着に取り組んでいます。学区は、交通量が多いので、地域の方々が、毎朝通学路で挨拶指導や交通安全指導を行っています。（ホームページより）
- ・子どもたちは、四季折々の行事で豊かな情操を養い、児童会活動の縦割り班活動は様々なかわりの中で人間関係を深め、活躍しています。全教職員による本の読み聞かせなどにより、子どもの読書の関心は高く、積極的に読書する子どもの姿があります。（ホームページより）

(イ) 地域の概要

- ・地域の俗称 禾生地域（「四日市場」「井倉」「与縄」「古川渡」「川茂」の5住所地区。他に禾生第二小学校区の「田野倉」「小形山」2住所地区も含まれる）
- ・文化やスポーツが盛んで、地域文化展、地域運動会、地域球技会、各種社会体育、習い事（習字、そろばん、公文、塾）等、多数が行われている。
- ・校区内に富士急行線「赤坂」「禾生」の二駅があり、校区から1キロメートルにも満たない地点に中央高速「都留インターチェンジ」も存在し、交通の便が非常に良い。
- ・人口・世帯数等は以下の表のようになる。都留市全体には都留文科大学の学生3000名強のうち、9割弱の下宿生が含まれている。

市区町村名	町丁目名		人口			世帯数
			男	女	総数	
都留市	四日市場	月見ヶ丘	307	312	619	153
都留市	四日市場	四日市場	667	715	1382	489
都留市	古川渡		699	678	1377	511
都留市	川茂		88	93	181	55
都留市	井倉	井倉	264	267	531	183
都留市	井倉	九鬼	114	129	243	92
都留市	井倉	中村	172	171	343	114
都留市	与縄		284	248	532	192
	総数		2595	2613	5208	1789
	都留市全体総数		16117	17471	33588	13536

3. 禾生地域協働のまちづくり推進会

(ア) 禾生地域協働のまちづくり推進会とは

「安心・安全なまちづくり」をテーマに行政と対等の立場で責任を共有しつつ、自主防災事業・健康増進事業・ふれあいの集い事業・環境美化事業・スクールガード事業・文化展事業の6つの事業を行っている。構成メンバーの中に、本校校長とPTA会長も含まれている。また、禾生地域には禾生第二小学校区も含まれている。

(イ) 禾生協働のまちづくり推進会と学校との関わり

- ・スクールガード事業を推進していただき、数名の推進会会員がスクールガードとして児童の登校を見守ってくださっている。あいさつ運動への協力もいただいております。登下校中に児童のあいさつへの関心を高めてくださっている。警察OBでもあるスクールサポーターもスクールガードと児童との顔合わせの会に出席していただき、小学生を取り巻く事故ばかりでなく、事件からの身の守り方なども話していただいた。教頭の話では、この話がトラブルが多かった児童の生活改善に大きく役立ったそうである。
- ・禾生地域文化展を主催しており、具体的な実行委員に本校校長も含まれている。禾生地域の児童の図画工作や国語の作品も展示して児童の文化への意欲付けを図っていただいている。
- ・与縄地区の児童は、協働のまちづくり推進会の組織区分けで、旭小学校区の「盛里地域協働のまちづくり推進会」に含まれるため、そちらの文化展に作品を出品している。小学校区と地域の組織の区分けが一致していないからで、一つの地域という観点では短所にも捉えられ

るが、他地域・他校との交流ができる発展的な側面もある。本校スクールガードの1名は盛里地域の役員でもあり、旭小学校区の文化展にも深く関わっている。

4. 禾生地域3校小中連携推進協議会との関わり

(ア) 禾生地域3校小中連携推進協議会とは

- ・平成24年度に道徳の研究指定事業を終え、平成25年2月に行われた第2回都留第二中学校区3区小中連携推進協議会において平成25年以降も禾生地域の子どもたちを地域で育成するための組織として「禾生地域3校小中連携推進協議会」として継続することが確認された。研究指定事業の関連もあって発足したこの協議会は、地域にとっても児童・生徒にとっても有意義な組織なので、今後とも継続していきたいとの地域の方からの声で継続されている。平成25年度から、事務局を禾一小→禾二小→都留二中の順に輪番で担当することになった。本年度の事務局は禾生第二小学校である。

(イ) 禾生地域3校小中連携推進協議会と学校との関わり

- ・あいさつ標語の募集 前述の「禾生地域協働のまちづくり推進会」と連携して6月と10月の年に2回実施。優秀作品は協働のまちづくり推進会主催の禾生地域文化展にて表彰し、優秀標語を印刷した便りを各家庭に配付したり掲示したりして日常のあいさつを啓発していく。優秀作品を印刷したのぼり旗も作成し、各校の近隣の道路に面した場所に設置する。また、あいさつの目標を明記したポスターを都留二中学生徒が作成し、各校に掲示する。
- ・各学校や地域での問題を定例の会議で交換し合い、生徒指導上の問題点の解決や、問題が発生しそうな状況を共有し、対応手段も検討している。

5. 都留文科大学との関わり

(ア) 都留文科大学とは

- ・昭和28年に山梨県立臨時教員養成所として発足し、昭和30年に都留市立都留短期大学に、さらに昭和35年に4年制の都留市立都留文科大学となった。平成23年までは公立大学で唯一の教員養成系大学であり、卒業生の多くが教職に就いている。とりわけ創設以来、小学校教員養成には力を注いできた全国区型の大学。小中学校としても大学が教育委員会と連携しているため、学生の活用場面において信頼できる人材の確保を安定して行えるありがたさがある。

(イ) SAT事業と都留文科大学

- ・都留文科大学の教員志望者を市内小中学校に配置し、子ども中心のきめ細かな指導を一層充実させるとともに、大学における教師教育の深化、発展を図る。また、この事業の展開により、小中学校と大学との連携を図る。(学生アシスタント・ティーチャー配置事業実施要項)

SAT-A	放課後学習指導(補充学習指導)	本年度8名
SAT-B	授業の学習支援(教員補助的)	本年度9名
SAT-C	特別な配慮を要する児童への支援(教員補助的)	本年度2名

(ウ) 学力向上フォローアップ事業と都留文科大学

- ・都留市からの学力向上の補助金事業として学力フォローアップ事業がある。補助金を活用して外部人材を確保し、補充学習や発展学習を学校が計画し、実施するものである。
- ・本事業を活用している他の学校は放課後や長期休業を利用して本事業を活用した学習会などを実施することが多いと聞いている。
- ・禾生第一小学校では土曜日の午前中に「学力フォローアップ教室」と称して、午前9時10分から学習45分と休憩15分の1時間1セットにて、11時55分までの3セットの学習会を実施している。
- ・都留文科大学の学生6名と市担補助員1名に講師を依頼している。市担補助員には監督者の役割も依頼しているが、不測の事態の対応のために教頭先生（無給）も参加している。
- ・土曜日は継続的には通常借りられない禾生地域コミュニティセンターの冷暖房完備のオープンスペースを会場としている。地域の子どもたちのためにというコミュニティセンターの好意である。
- ・スクールバス登下校を行っているため、送迎を保護者に依頼しにくい授業日の本教室の開設は難しい。また、土曜日の会場に学校を使うと駐車場が校庭奥のために社会体育と送迎車両のトラブルや管理のための職員（無給）の複数配置等の困難が生じる。
- ・本事業は好評であり、参加登録者は昨年度比125%の50名。出席への拘束も一切ないにもかかわらず出席率も毎回半程度ある。
- ・SAT経験者が大部分を占める都留文科大学の学生に講師を依頼するメリットは、年齢が近いことからくる親しみやすさ、SATで慣れているために児童への対応がきめ細かいことと1学年から6学年まで発達段階に大きな違いのある児童へ適切に対応していることがあげられる。

6. その他の地域との関わり

- (ア) 放課後子ども教室「禾一わくわくクラブ」の開催と多数の地域在住の実行委員及び協力員
- (イ) 駐在所職員の登下校指導と各種巡回
- (ウ) 金融機関や商店、個人宅が学校近隣に多く、学校の活動に協力的（駐車場利用や生活科探検等）
- (エ) 地域在住のPTA会長OB会「昇会」の学校への協力
- (オ) 伝統文化である神楽や舞への児童の参加と地域の方の指導
- (カ) 都留市最大の祭りの「お八朔」の神社である生出神社の存在と関連地域行事への児童の参加
- (キ) 社会体育での体育館管理人（学校隣家）の学校施設利用者への指導と異常時の通報
- (ク) 大月法人会の租税教室
- (ケ) 法務局の人権教室

7. 終わりに

子どもたちに向かって地域のちからはたくさん注がれていると改めて感じた。校区内は急速に発展していて、健康科学大学の学部新設、大規模商店開業、国道139号線バイパスの整備、これらに伴う住宅建設の増加など枚挙にいとまがない。文化を維持・発展させようとする気概もひしひしと伝わってくる。私たちは保護者として、また地域住民として、学校とともに禾生のちからを守っていかなくてはならない。